

# 大型開発から福祉くらし優先 憲法・平和 守り核のない社会を 鳥越候補の旗印鮮明 都知事選

大激戦のまま最終盤に入った東京都知事選（31日投票）で、4野党の統一候補の鳥越俊太郎候補は25日、2013年10月に台風被害を受けた大島町の被災地を視察するとともに、台東区上野の街頭や、北区の個人演説会



（写真）鳥越俊太郎都知事候補（中央）の必勝をめざし、こぶしをあげる野党・無所属の議員たち＝25日、東京都北区

で「弱い立場の人のために耳を傾ける政治を行います」と支持を呼びかけました。都民の声に寄り添い「都政を変えよう」と旗幟（きし）鮮明に訴える鳥越候補に共感が広がっています。

鳥越氏はこの間の演説で、都政の課題について「住んでよし、働いてよし、学んでよし、環境によし」の四つのよしの実現に奮闘すると表明しています。特に「公共事業にどんどん金をつぎ込めば経済が回るという発想自体が古い」と指摘。「都政は発想を変えなければならない」として、「一番お金を必要としている待機児童、介護などの充実にお金をつぎ込むべきです」と都政の転換を訴えています。

自民・公明が推薦する増田寛也氏や、自民党前衆院議員で元防衛相の小池百合子氏らは、2200億円をつぎ込む幹線道路計画など大型開発優先で、福祉やくらしに十分な予算を割かなかつた舛添前都政を「継承する」としています。

さらに鳥越氏は「平和、憲法、核のない社会」を都政の柱にしたいと強調。日本が71年間戦争をしなかったのは、憲法9条があり、集団的自衛権の行使ができなかったからとのべ、安倍政権による集団的自衛権の行使容認の閣議決定や安保法制の強行について「日本国民をだまし討ちにするもの」「東京都民として真っ先に『ノー』と言わなければなりません」と厳しく批判しました。

その上で、「非核都市宣言を行い、東京から『二度と戦争をしない』とのメッセージを出

したい」と表明。核兵器なき世界をめざすだけでなく、福島原発事故に学んで「脱原発」を進めることを訴えました。

一方、小池候補は、憲法改悪・侵略戦争美化の極右団体「日本会議」国会議員懇談会の役員を務め、自民党内でもタカ派の政治家として、憲法破壊の旗振り役になり、「核武装」まで主張しています。増田候補は、告示の直前まで東京電力の社外取締役を務め、原発推進をしてきました。

「この数年で起きたことを考えてみてください」とした鳥越氏は、秘密保護法、集団的自衛権行使容認、安保法制など、安倍政権が選挙で訴えずに進めていることを批判し「この流れを東京から変えたい」「東京に『反安倍』の旗を打ち立てる」と強調しました。

しんぶん赤旗 2016年7月25日(月)

## 市民と一緒に東京変える

### 知事選 大激戦のまま終盤へ

### 新宿 鳥越候補、大街頭で訴え

大激戦・大接戦の東京都知事選（31日投票）のラストサンデーとなった24日、野党統一の鳥越俊太郎候補は、がんサバイバー（治療中または治療を終えたがん患者）との意見交換会に参加し、銀座と新宿の歩行者天国で市民と一緒に政策を訴えました。夜は八王子市の個人演説会に臨み、日本共産党や民進党、社民党、生活者ネットの幹部・国会議員や都議らとともに都政の転換を訴えました。日本共産党、民進党の国会議員やママの会などの女性たちが「鳥越応援女性宣伝カー」を運行。鳥越候補を応援する各党、市民、勝手連が「みんなに都政を取り戻そう」と都内各地で終日、宣伝や対話・支持拡大に全力をあげました。







(写真) 訴える鳥越俊太郎都知事候補＝24日、東京都新宿区

新宿・伊勢丹前の歩行者天国で行われた大街頭は学生やママなど6人がそれぞれの立場から都政の問題を訴えました。

「共生社会をつくるセクシャル・マイノリティ支援全国ネットワーク」代表の原ミナ汰さん(60)は、鳥越さんを応援する仲間が多いといいます。「なぜなら鳥越さんは逆境を知っているからです。共感ができます」

大学3年の男性(20)は、最低賃金1500円への引き上げなどを求める若者グループ「AEQUITAS(エキタス)」のメンバーです。「東京の家賃が高すぎます。いま若者の4割は非正規労働者で最賃すれすれ、正規でもブラックな働き方。最賃を上げ、誰でも普通の家に住めるようにしてほしい。庶民のための都政を取り戻そう」

「安保関連法に反対するママの会@板橋など」の石川澄恵さん(32)は、待機児童問題を訴えました。

「待機児童はなくさないといけない。でも規制緩和ではだめ。安心して預けられないと働きません。区立保育園をつくってほしい。鳥越さんを応援する」

「全国過労死を考える家族の会」東京代表の中原のり子さん(60)は、「候補者の中で、過労死基本法が制定されたときに賛同してくれたのは鳥越さんだけ。過労死をなくすために働いてほしい」。

奨学金について語ったのは、大学院生の諏訪原健さん(23)です。「1651万64円。これは僕が借りている奨学金の返済総額です」と切り出しました。「本当に返していけるかな、結婚できるかなと不安になります。今の政治はこういう人のことを見てくれない。鳥越さんは私たちの声を聞いてくれる。みなさんの手で都知事にしましょう」

「東京から男女平等を実現する女性勝手連」から、和光大学教授の竹信三恵子さん(62)が発言しました。「ジャーナリストは地味といわれるが、鳥越さんはそれでいい。各候補の政策を見比べて鳥越さんにかけてみることにした」

市民の訴えを聞いた鳥越候補は、「基本的に、都民の中で弱い立場の人に寄り添っていきたいと思っています。権力を持った人や大金持ちの味方をするつもりはありません」と表明。「非核都市宣言。憲法をまもり平和を」と書かれたプラカードを自ら掲げ、「9条をはじめとした日本国憲法は宝です、守りましょう。限りなく原発をゼロに近づける。その先頭に東京が立ちたい」と呼びかけると、われるような拍手が起こりました。

街頭では、辻コースケさんがパーカッションを、玉井夕海(ゆうみ)さんが歌を披露しました。

しんぶん赤旗 2016年7月26日(火)

## 東京から250キロ圏内 原発廃炉を 鳥越候補が公約

東京都知事選（31日投票）で、野党統一の鳥越俊太郎候補は25日夕、北区王子の北とぴあでの演説会で、東京から250キロ圏内にある原発の停止と廃炉を、電力会社に申し入れることを公約しました。

鳥越氏は「東京を中心にした250キロ圏というのは福島第1、第2原子力発電所、新潟県の柏崎刈羽原子力発電所、茨城県の東海第2原子力発電所、静岡県浜岡原子力発電所。この原子力発電所を全て停止し、廃炉を申し入れることを、電力会社、特に東京都の場合は東京電力に申し入れる」と説明しました。

鳥越氏は2011年5月以降、東京から250キロ圏内の原発は1基も稼働していないとし、「原発はなくても私たち東京都民は暮らしていける」「廃炉にしなければもっとお金がかかる」と述べました。

しんぶん赤旗 2016年7月26日(火)

## 東京の未来 鳥越さんに託そう 5野党連帯 熱く訴え 北区個人演説会 聴衆ぎっしり

大激戦の東京都知事選（31日投票）で、野党統一の鳥越俊太郎候補を一気に勝利へ押し上げようと25日夜、北区で個人演説会が開かれました。会場は2階席まで聴衆で埋まり、急きょロビーに20席以上のいすを設ける盛況となりました。

鳥越候補とともに日本共産党の小池晃書記局長、民進党の山尾志桜里政調会長、社民党の福島瑞穂副党首、生活の党の青木愛参院議員、新社会党元衆院議員の岡崎宏美氏が連帯あいさつしました。

鳥越候補は「私は決して強い者の立場に立ちません。権力には抵抗の目線で臨みます」と切り出し、「つねに弱者の、困っている人の、いろいろな問題を抱えた人の目線、視点に立ちます」と訴えると、満場の拍手が起こりました。

小池氏は「清潔な都政を取り戻す、大型開発優遇から都民の暮らし第一に税金の使い方を変える、憲法を都政に生かす、これができる候補者は鳥越さんだけ。東京の未来を鳥越さんに託しましょう」と訴えました。

小池氏は、鳥越氏と争う小池百合子候補について改憲右翼団体・日本会議の国会議員懇談会役員を務め、核武装を主張するタカ派政治家だと指摘。「反自民」の姿勢についても「彼女はれっきとした自民党員で、何の処分もされていない。まやかしの対決構図に、だまされるわけにいかない」と批判しました。

自民、公明が推薦する増田寛也候補についても東京電力の役員を務めていた点を指摘し「原発を含む非核都市宣言を主張する鳥越さんとの、違いは明白です」と話しました。

山尾氏は「鳥越さんに平和のリーダーになってもらおう」「みんなで新しい都政を始めよう」と訴えました。

福島氏は「東京から自由と民主主義を発信できる知事を、みんなの力で誕生させよう」と拳を上げました。

青木氏は「強い意志、知性と行動力を持つのは鳥越さんしかいない」と力説。岡崎氏は「鳥越氏と一緒に支えあいの都政をつくっていきましょう」と語りました。

しんぶん赤旗 2016年7月26日(火)

## 横田基地 小池知事候補が「地域の宝」と賛美 「軍民共用化」主張 基地固定化に直結

東京都知事選（31日投票）に立候補している元自民党衆院議員の小池百合子氏は、米軍と自衛隊の一体化が進む横田基地（福生市など）について、破綻が明らかな「軍民共用化」の推進を主張しています。

小池氏は21日、福生（ふっさ）市で「この地域をもっと開発し、さらには住みよい街にしていくためには、横田基地の軍民共用化という、歴代の知事がなしえなかったことに引き続き挑戦したい」と演説。「この地域の宝であります横田基地を、もっとみなさまに還元していきたい」と、周辺住民に騒音被害や墜落の恐怖をもたらしている同基地を“宝”と発言しました。

同基地の軍民共用化は、1999年に「横田基地返還」を掲げて就任した石原慎太郎知事（当時）が、公約を破って持ち込んだものです。石原氏は同基地返還を先送りする一方、軍民共用化の協議を国に繰り返し迫りました。後継の猪瀬直樹知事（2013年辞職）も掲げましたが、周辺住民や自治体から「騒音被害が拡大する」「基地の固定化につながる」と反対の声が上がり、共用化に向けた協議は進んでいません。

一方、日米両政府は航空自衛隊航空総隊司令部の移転（12年）や、特殊作戦用の垂直離着陸機オスプレイの配備（17年から）、ステルス戦闘機の整備拠点化など、戦争法とともに同基地を日米共同作戦の拠点とする仕組みづくりを進めています。基地周辺では米軍がパラシュート降下訓練を繰り返しています。

これに対して鳥越俊太郎候補＝野党統一＝は平和、憲法を守り非核都市宣言を発信することを掲げるとともに、同基地や上空の横田管制空域の返還を要求し、オスプレイについても「控えてもらいたい」と訴えています。

「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の高橋美枝子代表は「横田基地では年間1万2000回も飛行機が離着陸し、三沢（青森県）や沖縄に飛行しています。夜間の離着陸も増えてひどい騒音をまき散らしています。軍民共用化発言はこの実態を知らないものです。横田基地は決して“宝”ではありません。都がすべきことは軍民共用化ではなく、危険な基地をなくすことです」と話しています。

## 都知事選 問われる保育政策

### 鳥越氏・開発優先やめて保育施設増設へ

### 小池氏・詰め込み策を推進 増田氏・隠れ待機児童無視

保育所の待機児童解消は東京都知事選の大きな争点の一つです。どの候補も、「待機児童解消」を掲げていますが、問われるのはその中身と裏付けです。

安倍政権の待機児童解消策は、▽小規模保育の定員19人を22人まで拡大▽保育所の広さなど国の最低基準を上回る自治体の基準を引き下げる—など子どもの成長と安全を犠牲にした「詰め込み」です。

この安倍政権の「詰め込み」路線をそのまま掲げるのが、自民党前衆院議員の小池百合子氏です。

同氏は、「保育所の受け入れ年齢、広さ制限などの規制を見直す」と「詰め込み」策推進を表明。2歳までの「小規模保育」の年齢制限も緩和し、3歳になっても認可保育所に転所させず、狭い保育所に押し込める考えです。

自公推薦の増田寛也氏は、『待機児童解消・緊急プログラム』を策定し、8000人の待機児童を早期解消」としてしています。

#### 増える一方

今年4月の待機児童数は8466人ですが、これには、希望した施設に入れず育休を延長した人や都独自の認証保育所に入所する子ども（1万215人）などは含まれていません。実際の待機児童は、2万数千人もあり、増田氏の対策では待機児童は減りません。しかも、「バス送迎で広域保育」を掲げ、離れた地域に通わせて子どもに負担を強いる政策です。

舛添前都政も待機児童解消を掲げたものの、増える一方でした。大型道路に年間2200億円も注ぎ込むなど大型開発優先で、保育所建設や保育士確保に十分な予算を回してこなかったからです。

しかも石原都政当時の2001年から保護者と施設の直接契約の「認証保育所」を導入。施設整備は民間任せにして、認可保育所増設に背を向けたため、待機児は解消されませんでした。

小池、増田両氏も大型開発優先の都政を引き継ぐ方針です。

#### 安全犠牲にせず

野党4党が推す鳥越俊太郎氏は、「公共事業で経済をよくするやり方はやめて、待機児童、介護などの問題にお金を使って経済を活性化させます」と都政の転換を表明。「潜在的に2万人ともいわれる待機児童に見合った施設を整備しなければいけない」と保育施設の増設を主張し、保育士の待遇も「全産業平均より10万円も給与が低い。行政できちっと手当とする」と改善を訴えています。

規制緩和の動きに対しても「安全を犠牲にはできません。他の財源を見直し、質を落とさずに量を拡大するよう取り組みます」と表明しています。

(鎌塚由美)